



中津市・津和野町と

津山市の共通点

—「蘭学・洋学三津同盟」締結のきっかけ—
昨年11月18日、津山洋学資料館で、大分県中津市・島根県津和野町と津山市が「蘭学・洋学三津同盟」を締結しました。



「三津」が輩出した明六社の結成メンバー
(左から津田真道、西周、福澤諭吉)

同じ「津」の字でつながり、共通の歴史的背景を持つ三市町が、相互に連携・協力して学術研究と知的観光を盛り上げ、地域の活性化につなげていこうとするもので、津山市が提案して実現しました。

中津市では、『解体新書』の翻訳を主導した前野良沢、慶応義塾を創設し「ペンは剣よりも強し」の名言で知られる福澤諭吉などが有名です。国史跡の福澤諭吉旧居や福澤記念館、医師の旧宅を活用した村上・大江医家史料館などがあり、令和元年（2019）、中津市歴史博物館が開館しています。

津和野町には、幕末にオランダ留学した哲学者で官僚の西周や、陸軍軍医で数々の小説を書いた文豪の森鷗外などがいて、国史跡の西周旧居や津和野町郷土館のほか、森鷗外記念館などがあります。

そして、津山市。津山藩医で蘭学研究を歴代が継承・発展させた宇田川家三代、幕末に対米露交渉で活躍した箕作阮甫、津和野町の西周とともにオランダ留学した、法学者で官僚の津田真道などがいて、国史跡の箕作阮甫旧宅に隣接し、全国で唯一「洋学」の名が付く、津山洋学資料館を整備しています。

さらに注目したいのが、中津の福澤、津和野の西周の津山の津田は、いずれも日本初の学術団体「明六社」の結成メンバーだということです。

明六社は、明治7年（1874）に始めた機関誌を、当時の発行部数としてはとても多い、約3200部発行するなど、政治、外交、教育を始め幅広い分野で近代的思想の普及に大きな影響を与えました。

来年は、この明六社結成から150年という節目の年に当たり、三津同盟に基づく事業の一つとして、記念企画展の共同開催を予定しています。

今後の同盟の動きに、ご期待ください。

津山洋学資料館（西新町） ☎23-33324

広報クイズ&ご意見募集

正解者の中から抽選で5人に当たる！

問

3ページ「申告は3月〇〇日まで」。
〇に入る数字2文字は？

応募方法 ①答え②氏名③郵便番号・住所④広報紙への感想・市政へのご意見⑤右のA~Fの記念品の中から1つを書いて、秘書広報室に送る

Eメール kouhou@city.tsuyama.lg.jp
ファクス 32-2152
はがき 〒708-8501 津山市役所秘書広報室行

※お便りの内容は広報紙やホームページで紹介する場合があります

記念品

- ①あば温泉無料入浴券（5枚）
- ②百々温泉めぐみ荘無料入浴券（5枚）
- ③津山郷土博物館招待券（2枚）
- ④津山洋学資料館無料招待券（2枚）
- ⑤津山まなびの鉄道館無料入館券（2枚）
- ⑥ベルフォーレ津山 映画鑑賞チケット（2枚）

締め切り 令和4年2月20日(日)当日消印有効

12月号の正解 大地（応募53人、正解52人）
当選者の発表は、記念品の発送をもってかえさせていただきます。

2月号 目次

税の申告準備はお早めに	②	けいじばん	⑭
市からのお知らせ 市職員の給与など	④	津山の歴史あらかると	⑳
そろそろあなたもマイナンバーカード ほか		津山自慢 高田小学校	
まちかど写真館・おめでとう赤ちゃん	⑫	世界に一つだけ 手漉き和紙の卒業証書	㉒